

台風一過の翌日、幸いにも天候に恵まれ校庭の樹木観察を実施することができました。

中原小学校は、戸畑区の工場地帯に続く住宅地にあります。昭和10年代創立で校庭には、様々な樹が成長しています。



開会の「もくもくクイズ」で、木のすごさ、不思議さを子供たちに伝えました。木も生き物だとの実感を持ってもらえたとともに、蒲生の大クスの胴回りの実寸ロープで子供たちの周りを囲んだ時はその大きさに驚いていました。特に、戸畑小には立派なクスノキが数本成長しているのもそれと関係づけて体感したと思います。

クイズの後はグループに分かれての「フィールドビンゴ」と樹木観察をしました。

今年は、樹木観察が終わったら、グループに分かれて樹木の名札を作成するという事で、子供たちは熱心にメモを取っています。



校庭にはウバメガシ、イチイガシ、マテバシイなどのドングリの木が沢山成長しています。

ウバメガシでは、材が高級薪炭である備長炭の材料になることを伝えました。

子供たちにとっては炭はバーベキューでお馴染みでしたがスタッフの持参した備長炭の実物を見て、硬さやつやを確認していました。

クスノキの観察では、ダニ室を観察、クスノキから取れた樟脳の匂いを嗅いでもらい、防虫剤として、現在も使われていることを伝えました。



最後に体育館で「樹木質問コーナー」、全体の振り返り、「森林の働き」についての講話を行いました。

質問コーナーでは、なぜ木の幹の模様がいろいろとあるのかなど昨年に引き続き難問が出され、回答者が悩んでいました。

コロナ対策でマスクやマウスシールドを使用したため、マイクも使いましたが一部聞きにくい時があったようで今後の課題とします。以上

スタッフ（赤松、大森、手嶋、高田、中村、久保田、常藤、宮本、野見山）